§参考文献
魔界の設定については以下の作品を参考に作成している。

ａ）「デビル・メイ・クライ」シリーズ（ＣＡＰＣＯＭ）
ｂ）仮面ライダー電王（テレビ朝日・東映）
ｃ）ああっ女神さまっ（藤島康介）
ｄ）３×３ＥＹＥＳ（高田裕三）

§魔界[Chaos Sphere]
・魔界とは、具象界に隣接する異世界の中でも、最も規模が大きいものである。
・魔界には”デーモン”と呼ばれる魔神種族とそれに従う従属種族がいる。

○魔界の成立
・魔界がどのように作られたのか、記録は全く無い。
・唯一、語り部の中で次のような詩を記憶しているものがいる。

初めに混濁する魔素あり。
やがて３つの渦現れり。
渦は魔素を引き裂いて天地を分けた。
渦より現われたる無数の魂魄は、
天地に散って血肉を得た。

・上記の詩における”魔素”とは、具象界の神話における混沌／カオスに相当する。
・”３つの渦”とは、今の魔界の種族の根源といわれている霊素、元素、念素のこと。これは具象界の神話では、神格化されて創造神といわれるものに相当する。
・この渦が混沌を切り裂いて天と地を作り出し、住人となる魔神の魂をばら撒いたというのが、魔界の成立であったといわれている。

○魔界の文化様式
・魔神達は生まれてすぐに高度な知能と特殊能力を獲得するため、個々の自意識が高く、魔界では文明や文化、科学といったものはほとんど発展していない。
・基本的な文化様式は、具象界における中世以前の部族社会に似ている。
・各部族にはその頂点に君臨する『魔王』と呼ばれる強力な個体を中心に、部族を統括するための貴族階級に相当する者達が存在する。

○魔神の言葉（言語）
・魔界の住人である魔神達は、具象界の人間と比べるとはるかに高い霊格を持つ。そのため、魔神は生まれながらにして半テレパシー的な意思疎通が可能。
・見た目は動物の唸り声や鳥の囀りのような音を発していたとしても、言いたいことは通じる。そのため、明確な言語と呼ばれるものが無い。
・異界（特に具象界）の住人相手にも同じことがいえ、魔神は相手がどのような種族であれ、不自由なく会話することができる。
・人間が相手の場合、その人間の母国語が日本語であれ、英語であれ、意識せずに意思疎通が可能。人間から見ると、相手の魔神は自分の母国語と同じ言葉を発しているように聞こえる。
・動物や昆虫といった霊格がはるかに低い生物に対しては、ニュアンスの伝達をすることで会話することができる。例えば犬と魔神が会話する場合、魔神は普通に話しかけ、犬はそれに吠えたり尻尾を振ったりして返事する。第三者から見ると会話が成立しているようには見えないが、お互いがニュアンスのやり取りをしているため、例えば”お腹がすいた”、”飼い主は青い服を着ている”というような低レベルの情報交換が成立する。

○魔界の階級
魔界では以下のような階級社会が存在する。

１）魔王(Master of Daimon)
・部族を統括する最強クラスの個体は『魔王』と呼ばれる。
・実際に部族の頂点として君臨していていなくても、このクラスの実力を持つ個体は存在する。

２）貴族(Noble of Daimon)
・部族を統括する指揮官に相当する力をもった個体は『貴族』と称される。
・この階級には魔王に準じる実力を持つものが多い。
・この階級の魔神は、爵位（いわゆる公・侯・伯・子・男）を付けて名前を呼ばれる。一部では具象界から取り入れた士官（「将官」、「佐官」、「尉官」）を使っている部族もいる。

３）語り部(Teller of Daimon)
・知識や伝承を記憶・記録し、伝えることに専念している魔神を『語り部』と呼ぶ。
・魔界の中では有識者であり、魔王の直下で参謀として働くことが多い。

４）門番(GateKeeper of Daimon)
・空間転移や異界転移の能力に長けた魔神は『門番』と呼ばれる。
・この階級の魔神は、個体としての戦闘能力はどちらかというと低いものが多い。
・空間や次元の壁を自由自在に飛び越える能力を持つことから、戦略的・戦術的に貴重な存在となっている。

５）雑兵(Minor of Daimon)
・上記の階級に属さない個体は、総じてこの階級に含まれる。ただし、その能力の高さはピンキリなので、正確には”雑兵”とは呼ばれているわけではない。

§魔神（デーモン）
”魔神”とは、「魔界の住人であり、覇王戦争（詳細は後述）のために自らの目的を持って行動する知的生命体」であるものとする。

○種族
魔界の住人である魔神は、大きく分けて３つの種族に分類される。これはその起源となる３つの魔素と対応している。

１）霊素[Spiritual]／種族名＝ラウティ・リップス[Lauti･Rips]
・霊素とは、生命力と精神力の根源である魔素のこと。
・霊素の加護を受けた魔神の種族は『ラウティ・リップス』と呼ばれている。
・この種族には生命力の扱いに長けた『ラウティ』、精神力の扱いに長けた『リップス』という部族がおり、この種族名は部族名を繋ぎ合わせたものといえる。
・この種族のほとんどが人間に非常に近い姿をしている。
・『ラウティ』は、人間の基準からすると見目麗しく、天使のような姿をしている個体が多数いる。性別は♂、♀、雌雄同体、無性のいずれも存在するが、その比率はほぼ２：４：１：３。
・『リップス』は、人間の基準からすると美形、もしくは妖艶な姿をしている個体が多数いる。性別は♂、♀、雌雄同体、無性のいずれも存在するが、その比率はほぼ１：７：１：１。

２）元素[Elemental]／種族名＝ラトン・メーレ[Latne･Mele]
・元素とは、火水土風をはじめとするエネルギーと物質の根源である魔素のこと。
・元素の加護を受けた魔神の種族は『ラトン・メーレ』と呼ばれている。
・この種族は８種類のエネルギー／物質に相当する部族に分類され、それぞれが対応するエネルギー／物質を操ることに長けている。
・その外見は人型であるものも多いが、エネルギーや物質の塊をしていたり、合成獣のような姿をしている個体も多数いる。
・具象界で知られる悪魔（ソロモンの７２柱の悪魔など）は、ほとんどこの種族に属しているといっても過言ではない。
・この種族の性別は♂、♀、無性の３種類でほぼ占められており、その比率はほぼ３：３：４。

３）念素[Material]／種族名＝ライ・レータム[Lai･Retam]
・念素とは、時間と空間の根源である魔素のこと。
・念素の加護を受けた魔神の種族は『ライ・レータム』と呼ばれている。
・この種族には、時間や空間を操ることに長けたものが多い。
・他の種族よりも個体数は極端といっていいほど少ないが、個々のポテンシャルは非常に高い。
・最近では異界（特に具象界）との接触により、金属と機械を操るものが現れた。
・その外見は、人間とはかけ離れたものがほとんど。時計（砂時計や振り子時計）、魔方陣、彫像のような姿をしているものが多く見受けられる。
・この種族の中では少数派のようだが、ロボットのような姿（そのほとんどが金属と機械を操ることに長けている）をしているものもいる。
・この種族の性別は、ほとんどが無性。極稀に無性以外の性別を持つものもいる。

○魔神の性別
・魔神には♂、♀、雌雄同体、無性の４つの性別が存在する。
・魔神同士の交流において、その性別が意味を持つことはあるが、魔神の数が増えることについては、この性別は直接関係ない。
・魔神は、必要なら自分の一部を切り離して、自分の子孫や分身にあたる個体（＝子供）を、単独で作り出すことができる。そのため、性別に関係なく一人で子供を作ることができる。
・子供は複数で作ることもできる。必要なのは作る際に分け与える力を誰が提供するかであって、その性別は関係ない。
・作られた子供の性別は、作ったものが決めることができる。

§魔神と部族
ここでは魔神とその部族、代表的な魔王について説明する。

○霊素／ラウティ・リップス
・この種族は、魔界の人口の約３割を占めているといわれている。
・他の種族に比べて、部族に君臨する魔王の統率力は高く、部族間の交流も盛んに行われている。
・お互いのプライドがあるものの、覇王戦争の中では、この２つの部族は共闘体制をとっている。
・・・

・・・

得するための争いも、よく発生する。
・同様に、異界の住人（特に具象界の人間）に惚れ込んでしまって定住してしまうものや、溺愛するあまり魔界へ連れてきてしまうものもいる。

〇捜索対象となっている魔神達
・覇王戦争の中では、しばしば特殊な能力を持つ個体が争奪戦の対象となる。
・純粋な戦略ユニットとして求められるのがほとんどだが、魔王や貴族の魔神が、特別な感情をもってその個体を欲しているという裏事情を持つこともよくある。
・以下にその争奪戦の対象となっている個体を列挙する。

１）鬼子母神”ハリティェ”／♀／影の部族
・具象界では”ハリティー”とも呼ばれる鬼女の魔神。
・あらゆるものを惹きつけずにはおれない圧倒的な母性と存在感を持ち、一時、様々な魔王から求愛を受け、その結果、何人もの魔王との間に数千（一説には数万とも）の子供を作った。
・途中で、子供達が覇王戦争で命を散らしていくことを嘆き、自ら亜空間を作り出して全ての子供達とともに引きこもった。
・彼女とその子供達はその亜空間の中で眠りについている
・通常の魔界の空間からは切り離されたところにいるため、その正確な位置は誰も知らない。
・ひとたび彼女を目覚めさせ、その子供達を配下につければ、魔界の軍事バランスを崩壊させるだけの戦力が手に入ることになる。
・魔界では単なる伝説となりつつあるが、彼女を知る一部の魔王は、今も捜索を続けている。

２）真珠姫”パールマティー”／♀／ラウティ
・具象界では”パールヴァティー”とも呼ばれる魔神。
・真珠のような光沢のあるプラチナの髪を持つ少女の姿をしている。
・額には第三の目を持ち、普段は前髪で注意深く隠している。
・彼女は現在、行方不明である。覇王戦争の戦乱を嫌い、具象界に身を潜めているという噂がある。
・魔神としては貧弱な存在だが、彼女の第三の目は他に類を見ない強力な能力を秘めている（下記を参照）。

●パールマティーの特殊能力「完全復元」
・記憶している目標を完全に復元する。
・目標は死亡しても瞬時に蘇生できる。
・仮に目標が完全消滅しても、１分たらずで０から復元できる。しかも、復元途中でも可能な範囲でなら行動できる。
・蘇生／復元された目標は、死亡／消滅する寸前の全ての能力と記憶を全て持って復活する
・目標はパールマティーとどれだけ離れていたとしても復活できる。
・この能力は、憶えている誰か一人にしか適用できない（複数の目標を覚えておくことはできない）。
・目標を憶えるには１分間、目標に触れて集中している必要がある。
・目標のことはいつでも一瞬で忘れることができるが、その際に目標に関する記憶も全て忘れてしまう。これによって忘れられると、二度とこの特殊能力の目標になることはできない。
・彼女は額の第三の目でこの効果の目標を憶える。
・憶えた後、第三の目が再び開かれない限り、彼女は覚えた目標を忘れることはない。
・不老不死の魔神が最も恐れる”消滅死”からも復活できるこの能力を、全ての魔王が欲しているとい過言ではない。

３）観察鏡”ミール”／無性／ライ・レータム
・古めかしい額縁を持った楕円形の鏡の姿をした魔神。
・鏡に映った相手の全ての過去を見通す力を持ち、今まで写した全ての相手のことを記憶している。そのため、この魔神は語り部であるといわれている。
・あらゆる魔王の弱点を知っていると噂されており、争奪戦の対象となっている。
・器物としての外見の上、自らほとんど動こうとしないため、ただの鏡としてどこかに放置されている状態。
・噂ばかりが先行して正確な姿（額縁の形など）が伝わっていないため、なかなか発見されないでいるようである。

==========